

庄内川起点と佐々良木川

佐々良木川・寿老の滝

土岐川上流域左岸の清流である佐々良木川は、屏風山を水源とし、その一つが寿老の滝である。

夏には多くの家族連れが水遊びに訪れる。清冽な流れにはカワゲラやカゲロウの仲間も多く、アマゴやカジカも生息している。

佐々良木川・小滝

寿老の滝がある尾根を一つ越えた深い谷を流れる沢には大小七つの滝がある。これは四番目の滝。現在は登山道が崩れて通行止めとなっている。沢沿いにはシラヒゲソウ・シロバナイナモリソウ・ミゾホオズキ・トチバニンジン・アオフタバランなど稀少種が自生する。ホトケドジョウも生息する自然環境の現状保全が望ましい。

佐々良木川起点の標識

庄内川では最も水質が良い佐々良木川の流域は深く、下流から神徳川、椋実ダム・寿老の滝を経て屏風山（標高795m）山頂直下まで流路延長4.5km の佐々良木川、県道418号線沿いの流れを夕立山山麓へ遡上する夕立川等支川は大小合わせて15に及ぶ。

写真は佐々良木川の起点となる。

源流域の水生生物

佐々良木川の起点となる辺りでは、上流に夕立山からの沢水で営まれる水田・谷戸がある。

右岸から合流する沢の上流に民家はなく清冽な流水にはホトケドジョウ・ミヤマカワトンボ・ヘビトンボ・カワゲラ等、綺麗な水質で幼虫が育っている。

小里川ダムと流域の動植物

小里川ダム 2023年9月5日

渴水期で貯水量は低い。ダム後方（北側）に見えるのは標高820mの田代山と前衛の688Mのm角点。屏風山の山並みは田代山の後方にあり望めない。田代山も佐々良木川の水源の一つで、この尾根が小里川との分水嶺となっている。ダム上流で小里川に注ぐ支川は、猿爪川、大川川、久保原川、兼平川、田沢川等31を数え兼平と田沢にはダムがある。

クロゲンゴロウ 2023年9月28日

小里川支流の源頭は、田代山南斜面では急峻なV字谷で、土岐坂川より上流域では谷戸にある小さな溜め池や沢が水源となっている。

溜め池は200余りが点在する。宅地や道路の整備、水田の圃場整備や池の埋立て等の開発行為を免れた古い池には、絶滅危惧種となった両生類、水生昆虫、水草などが生き延びている。クロゲンゴロウもその一つ。

サンショウウオ 2023年9月5日

岐阜県産の両生類・サンショウウオの文献を検索したが該当する種が見出だせなかつた。

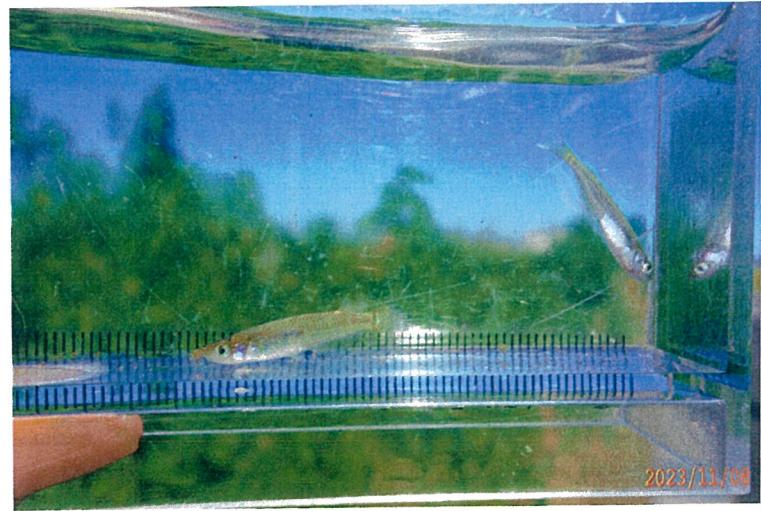
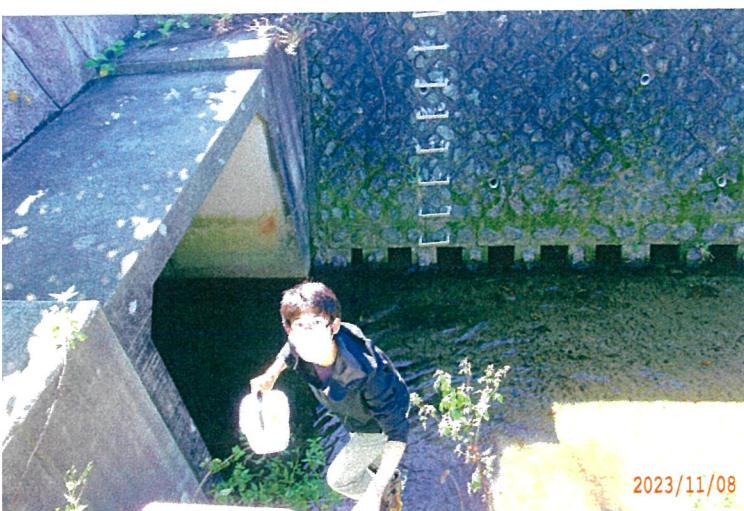
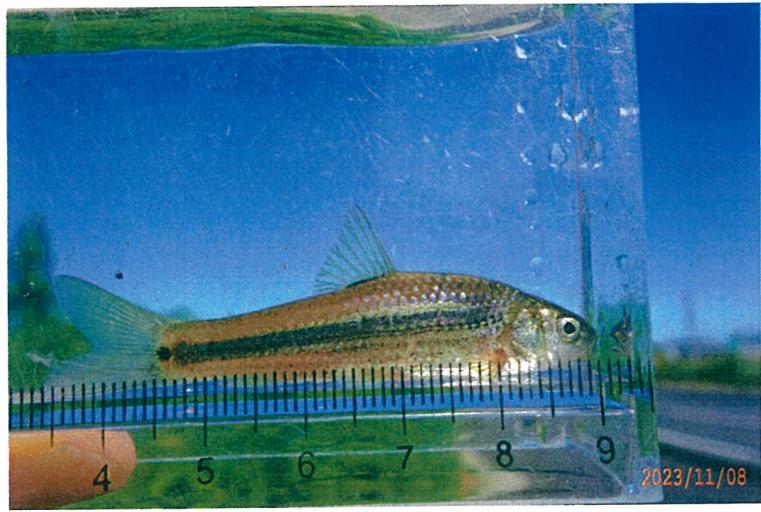
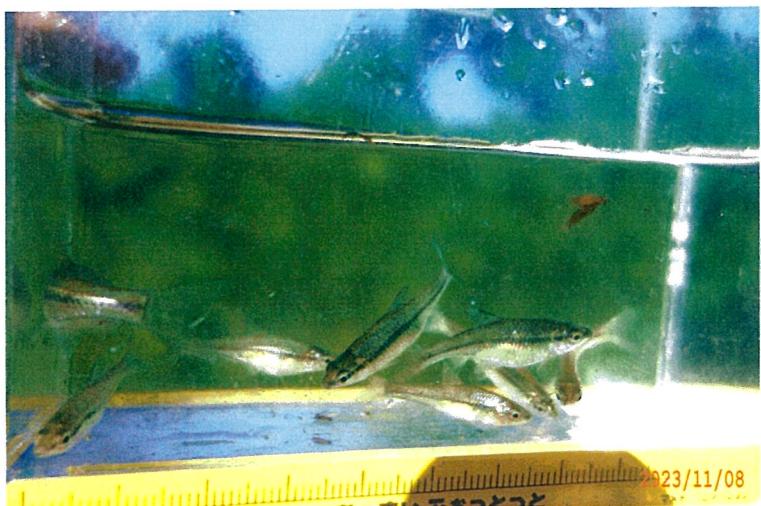
採捕は池などの止水域であったが、池に流入する細い沢があり渓流に産卵し、池に漂着し上陸間際の個体であったと思われる。体長40mmで体全体が黒色。同年9月28日には採捕確認がなく既に陸上生活へ移行したか、生態は不明。生息地保護のため

写真は差し替えてあります

フラスコモ

山間の小さな溜め池に群生している。

他にフトヒルムシロなど水草の種類も豊富な池があり、綿密な調査を要する。



庄内川中流域の生物調査

庄内川八ヶ村用水における調査

2023年10月29日、現地にて生物調査を実施。例年であれば秋分の日の9月23日頃に庄内川竜泉寺下にある八ヶ村用水の取水堰が締め切られ流水がなくなるが、今年は止水されず、水深と流速がある中での調査を大学生の方と共に実施した。オイカワ・マジミなどを採捕した。後日、再度実施した。

クコの花

庄内川の高水敷にはクコが多く生育している。

9月から11月にかけてナスの花に似た薄紫色の花を付け、赤い果実は不老長寿の薬草として用いられる。クコの実は糖尿病、不眠症に効き、クコ茶は高血圧や動脈硬化に効用がある。

長戸川支川の生物調査

2023年11月8日、長戸川下流域で合流する支川の中流で生物調査を実施した。この支川は、守山区志段味地区にある河岸段丘からの湧水や、溜め池を埋め立てて地下に雨水貯留池を設け、そこからの水が流れている。水質は良く外来種も移入されていないため、名古屋市内では絶滅危惧種となつた淡水生物が生息している。

カワムツの幼魚

この水域では、名古屋市内では数少なくなったカワムツが生息している。河川改修前は長戸川上流域にはカワムツが多産し、20m区間をタモ網で30分程採捕すると100尾を越えた。カワムツは汚濁のない清冽な水に棲み水生昆虫を採餌し水深がある淵にいるが、ここでは暗渠がその条件を補完している。ただし、将来は激減すると思われる。

庄内川中流域の生物調査

モツゴの群れ

モツゴは関東以西に分布するが、近年東日本への移入が進んでいる。吻先に上向きの小さな口があり、関東地方ではクチボソと呼ばれている。黒い縦帯の側線が明瞭。富栄養化や水質汚濁に強いので、ヘドロが滞積した堀川猿投橋下の感潮域にも生息している。

石、流木、レジ袋、空き缶でも産卵している。2023年11月8日 長戸川支川

タモロコ

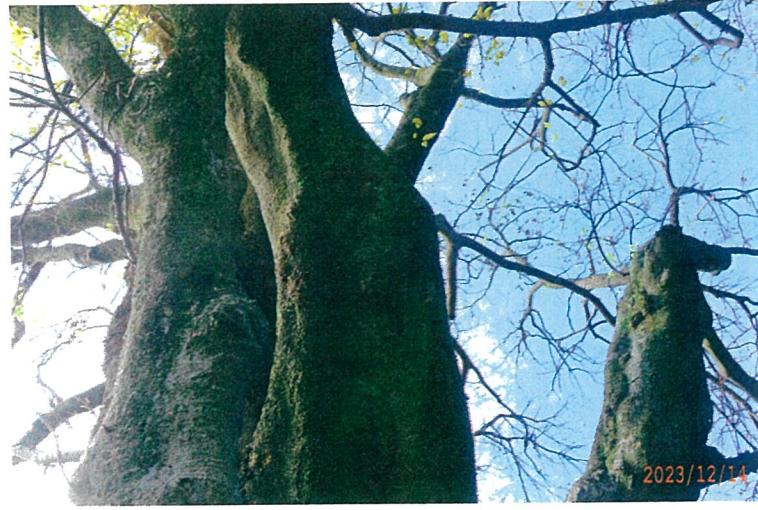
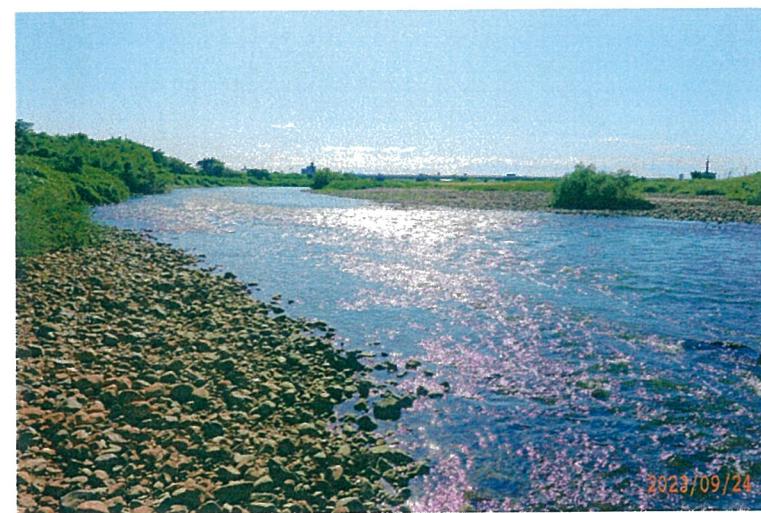
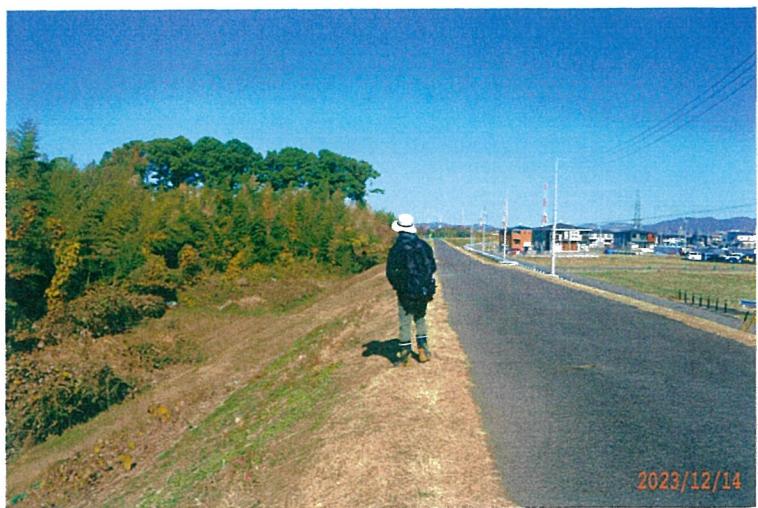
タモロコは普通、圃場整備される前の水田の農業水路に生息する事から名が付いた。小川や水路の中層を遊泳し、初夏に水田や水路の水草に産卵する。一対のやや長い鬚を持ち、吻は丸く写真のようにモツゴより太い縦帯がある。東北や九州のものは移入である。溜め池の埋立てや水田と水路の消滅により減少し名古屋市内では激減している淡水魚の一種。

ミナミメダカ

庄内川本川や支川、源頭の溜め池にも野生のミナミメダカは生息しているが、圃場整備や溜め池の埋立てなどで激減している。移入されたヒメダカとの交雑個体も確認されている。この水域には、宅地開発される前にドブガイなどの二枚貝などと共に数千匹ものメダカが多産した通称『メダカ池』の生き残りと思われる。二枚貝等の貝類はほぼ絶滅した。

長戸川支川の水生生物

この日は井上海人氏一人がタモ網で約40分間採捕した。バッドには、右上にカマツカの他、タモロコ3、モツゴ7、カワムツ6、カワヨシノボリ3、カマツカ2、メダカ2、シオカラトンボのヤゴ1、カワニナ7、マジミ5、殻1、ミゾレヌマエビ10、イトウホソバトビケラ1、オグラノフサモなどを採捕した。



写真解説 庄内川 庄内川大橋

カヤネズミの巣

庄内川高水敷の草地には、愛知県では絶滅危惧Ⅱ類、名古屋市では絶滅危惧Ⅰ・B類に指定されているカヤネズミが繁殖している。体重が10g 前後で赤褐色をした小さな鼠で、草本の種子や昆虫を食べている。寿命は1年。春から秋にかけてイネ科草本の茎の途中に細切りした葉を編んで球巣を作り子育てする。

庄内川高水敷の現況

河口から28.2km～28.6km区間においては、宗教団体による耕作地やゴミが多い。

□28.6kmから上流には吉根排水路の解説版がある。

庄内川のモクズガニ

名古屋市では準絶滅危惧種に指定されている。庄内川流域では本川の土岐川上流域や矢田川、水野川、妻木川、佐々良木川などその支川に生息している。矢田川支川の香流川では生息数が多く、派川である堀川上流の黒川区間のものは庄内用水頭取工から流入した個体である。庄内川河口域で繁殖している。

河口から29.2km辺りは、高水敷の広範囲がかなり利用されていて、写真の通り電柱や硬木も生育している。

八ヶ村用水

庄内川八ヶ村用水取水堰から高水敷の端を流れ白沢川を伏越し、用水路は堤防を潜つて水田を潤し流末は矢田川へと至る。この用水が堤防を潜る手前で余水吐へと流れる小川は松川橋方向へと流下し再び庄内川に戻る。その小川に生息する淡水魚などは、毎年、秋分の日に取水を止めると流水がなくなり大量死を招いていた。当会では救出を兼ね生物調査を2007年から実施している。2023年9月24日

ゴマダラチョウ

エノキの葉裏に一個体ずつゴマダラチョウの幼虫がいる。

庄内川流域では年数回発生する。特に5月から9月に成虫は多く見られる。河畔林に生息しブナ科の樹液を吸汁し地上で吸水する。幼虫の食樹であるエノキの葉裏に黄緑色の卵を産み付ける。幼虫は体長約40mmで頭部に一対と胴部に3対の突起を持つ。根元の落葉の葉裏で越冬する。

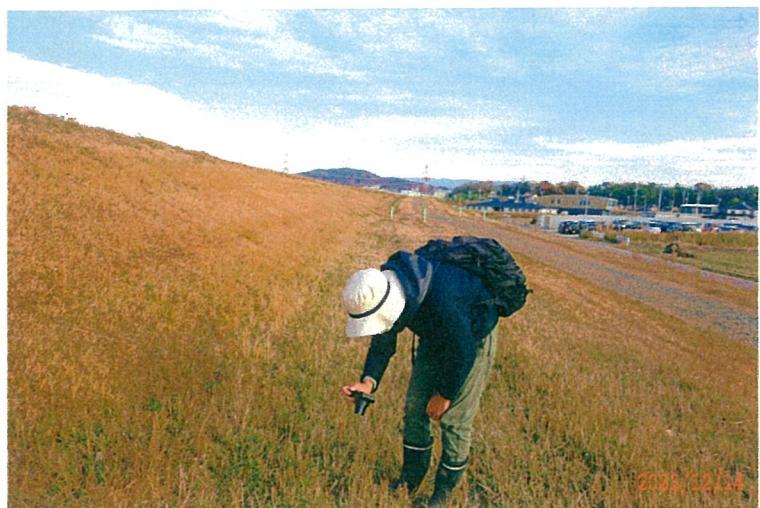
河口から28km地点の高水敷

庄内川の支川である到来川排水樋門から上流に向かう。
前方に見える竹林は、かなり古くからあり竹林内にはエノキ・ムクノキ・オニグルミ・アベマキ・ヤマコウバシ・ツルウメモドキ等が生育し、林床には稀少種の自生も見られる。この竹林は水制工の機能もあると思われるので保全を要する。

エノキ

ニレ科エノキ属の落葉高木で、樹高は高いものでは20mになる。福島県・新潟県より南の川沿いや林縁に生育し、葉は橢円形でやや光沢があり互生する。赤く熟す実は甘く野鳥がよく啄む。日本の国蝶であるオオムラサキの幼虫の食樹でもある。

東海道等、街道の一里塚の木として植えられた。旅人が一休みするに相応しい夏緑樹だ。



庄内川希少種移植地

カワラナデシコの冬葉 2023年12月14日

現在でも 300株は生育している。

モニタリング風景

カワラマツバの冬葉

やや乾燥した草地に生育するアカネ科の多年草で、高さは30-70cmになる。夏に白く小さな花を付ける。

希少種移植地の現況

移植への経緯

平成23(2011)年9月20日の台風15号による水害区域面積は186.5haで、志段見地区において越水し浸水家屋 670棟に及んだ。その災害対策緊急事業としての堤防嵩上工事に伴い、川裏約200mにカワラナデシコ・スズサイコ・カワラマツバ・コカモメヅル・フシグロ等が生育する表土20cmを捲り現地へそのまま移動し覆土した。

植物モニタリング

平成23災害対策緊急事業が完了し、以後、毎年数回、植物の消長を記録している。

また、外来種やクズなどが侵入し繁茂しないよう抜き取りや刈り取りを行い稀少種保全の維持管理を行っている。

表土20cmの土壤条件を改変せず実施したため、移植というよりも移動という方が適切な事例で、活着状態も良好に推移している。

32. 4km地点の川表

川表の堤防法面は増水時に漂着した種を含め攪乱作用が働き、多種多様な草本が繁茂している。

特に外来種が繁茂レススキなどのイネ科の高茎草本が、それらを抑制している。
カヤネズミの営巣も見られる。

覆土地区の全景

川裏手前の緑の部分は、覆土せず、当時のまま草刈りのみ徹底した区域である。

河川敷における最も注意すべき外来草本にアレチウリ・オオキンケイギク・オオブタクサ・セイタカアワダチソウがある。

現時点では侵入していない。今後も注意して発見寺には抜き取り作業を行う。

庄内川中流域大留橋から志段味橋までの左岸川裏堤防法面



カワラナデシコ

◆写真撮影日 1999, 4, 3 (上)
1998, 7, 22 (下)

◆写真撮影地 定点 同一個体



生育形 接地植物

分 布 本州、四国、九州

生育地 低地から山地帯の河原や草地でやや乾燥気味の礫地、日当たりのよい草原などに生育する。

形 態 茎…数本が群がって立ち、高さ30~80cm。節は膨らんでいる。

葉…対生し線形ないし線状披針形で、基部で左右の葉が結合して節を取り巻き、茎と同色のやや白みを帶びた緑色。芽吹きは3月頃始まる。

花…大きさは径4cm内外で、淡紅色からピンク色で、がくは長い筒型で長さ3~4cm、先は浅く5裂する。花弁は5枚で縁は糸のように細かく裂ける。花期は7~10月。

実…さく果で、弾けて種子を散布する。散布時期は9~11月。

参 考 秋の七草の一つとして知られ、緑濃い河原で群生した花が風にそよぐ姿は風情がある。庄内川中流域を代表する風物詩として、さらに群落拡大に努め、「撫子の散策路」「秋の七草の散歩道」として保全整備を図る事が望ましい。

庄内川河川整備事業における保全対象の野生生物について

解説 國村恵子

(庄内川32km~34km 地点に限定。台風12号・15号被害復旧事業の一環。詳細情報は別紙の通り。)

種名	名古屋市	愛知県	全国	解説(抜粋)
コカモメツル	絶滅	リスト外	リスト外	1999年9月には庄内川で4株確認。探せば残存する可能性はある。
カワラサイコ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧	リスト外	1995年~2000年東海豪雨前までは庄内川の河川敷に広範囲に生育した。2011年豪雨で土砂被覆など再び消失範囲が拡大。庄内川河川敷には一部群落が残る。
スズサイコ	絶滅危惧ⅠB類	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類	庄内川および天白川の河川堤防の川裏・川表に数株の個体群で生育する。近年河川整備事業で消失例もある。
カワラナデシコ	準絶滅危惧	リスト外	リスト外	河川堤防が生育敵地で、定期的な草刈りによる草地維持により高茎草本の侵入を抑止し現在まで群生地が保全されている。
フシグロ	リスト外	リスト外	リスト外	レッドデータブックには現在は未掲載だが、生育地は名古屋市内では激減し近い将来リストに入る種である。日当たりのよい草地に生育し、庄内川河川堤防ではカワラナデシコ・カワラマツバとともに群落を形成している。生育環境の保全が望ましい。
ヒメボタル	準絶滅危惧	リスト外	リスト外	上記植物生育地に1995年以後生息確認。溝辺に陸貝あり。

参考文献 絶滅ランクは名古屋市のレッドデータブック2004年版による。

『川に遊び 川に学ぶ』2002年発行 國村恵子著



守山高校北堤防法面から上記に移植



河原の 稀少種 保護策

庄内川河川整備事業における保全対象の野生生物について

解説 国村恵子

(庄内川32km-34km 地点に限定。台風12号・15号被害復旧事業の一環。詳細情報は別紙の通り。)

種名	名古屋市	愛知県	全国	解説(抜粋)
コカモメヅル	絶滅	リスト外	リスト外	1999年9月には庄内川で4株確認。探せば残存する可能性はある。
カワラサイコ	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧	リスト外	1995年～2000年東海豪雨前までは庄内川の河川敷に広範囲に生育した。2011年豪雨で土砂被覆など再び消失範囲が拡大。庄内川河川敷には一部群落が残る。
スズサイコ	絶滅危惧ⅠB類	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類	庄内川および天白川の河川堤防の川裏・川表に数株の個体群で生育する。近年河川整備事業で消失例もある。
カワラナデシコ	準絶滅危惧	リスト外	リスト外	河川堤防が生育敵地で、定期的な草刈りによる草地維持により高茎草本の侵入を抑止し現在まで群生地が保全されている。
フシグロ	リスト外	リスト外	リスト外	レッドデータブックには現在は未掲載だが、生育地は名古屋市内では激減し近い将来リストに入る種である。日当たりのよい草地に生育し、庄内川河川堤防ではカワラナデシコ・カワラマツバとともに群落を形成している。生育環境の保全が望ましい。
ヒメボタル	準絶滅危惧	リスト外	リスト外	上記植物生育地に1995年以後生息確認。溝辺に陸貝あり。

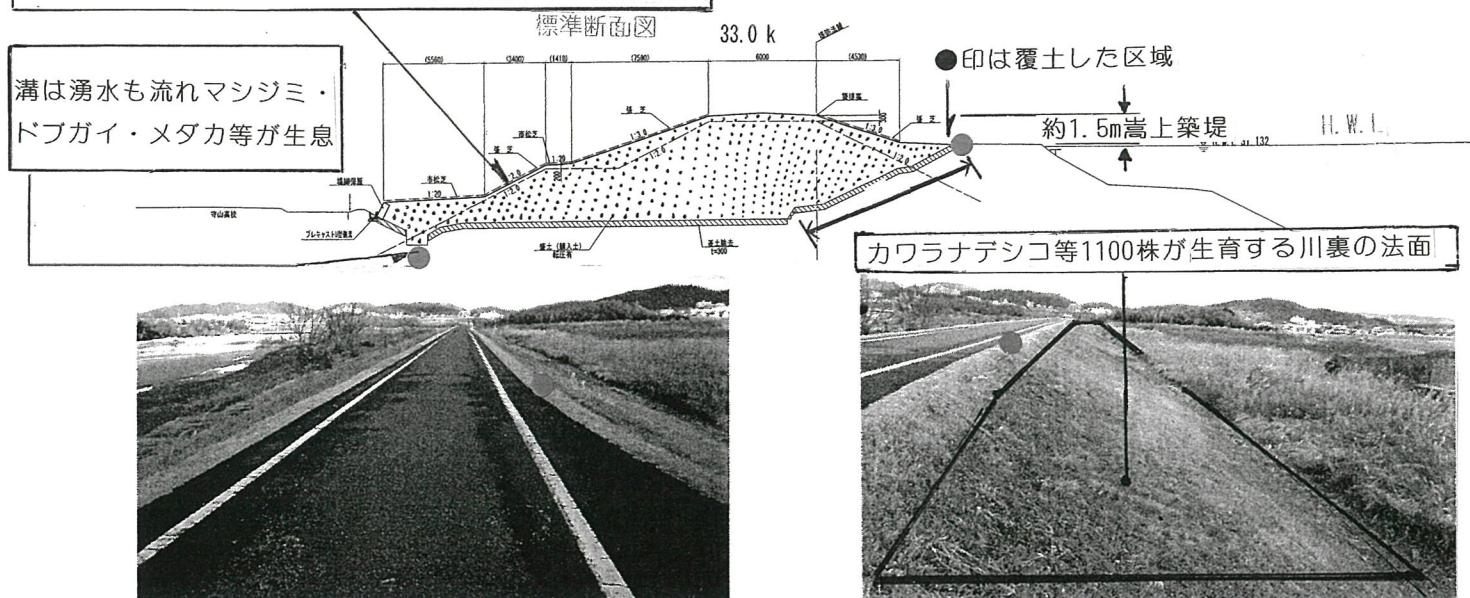
平成23年(2011)年9月20日の台風15号は停滞する秋雨前線を刺激し近年では最大の出水となつた。中流部では断続的に計画高水位を超過し名古屋市守山区下志段味地区では左岸堤防からの越水氾濫による浸水被害が発生した。志段味水位観測所では時間雨量64mm、累加雨量477mmに達し東海豪雨を上回る記録となつた。越水地点の堤防高は低いため、国土交通省は災害対策緊急事業として同区間の堤防嵩上工事を2012年1月に着工した。

同区間の堤防川裏区域には、名古屋市のレッドデータブックで絶滅危惧ⅠBや準絶滅危惧にランクされた動植物が生育生息しているため、当会から移植策を提言し、庄内川河川事務所において適切な移植地への覆土による代償措置が採用された。

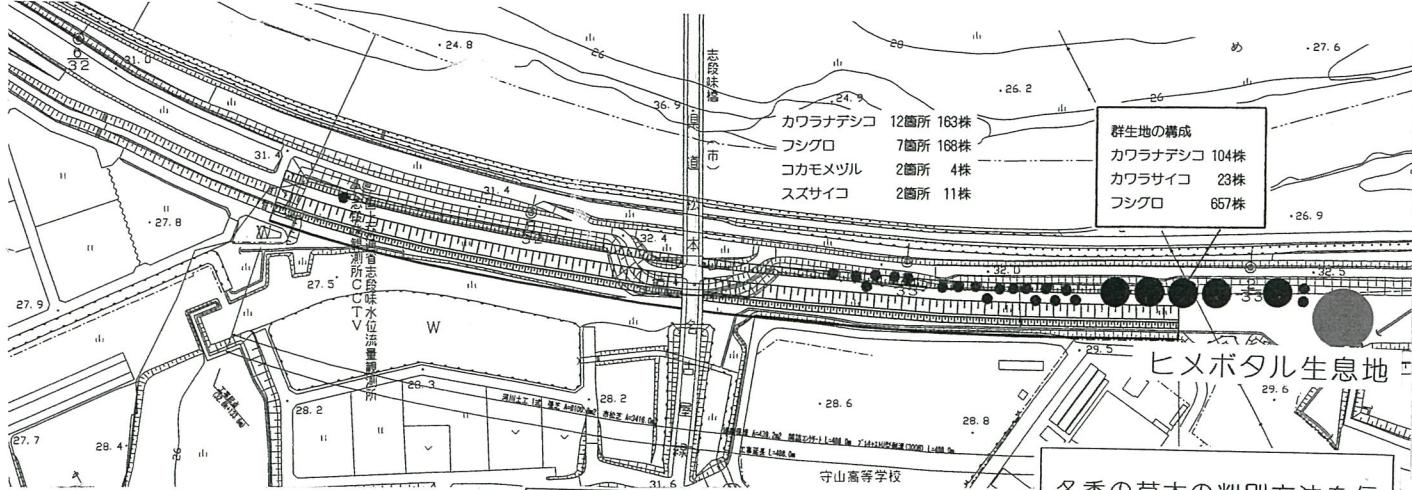
参考文献 絶滅ランクは名古屋市のレッドデータブック2004年版による。

『川に遊び 川に学ぶ』2002年発行 国村恵子著

左岸川裏法面に現況天端から1.5m、地表から6m盛土する

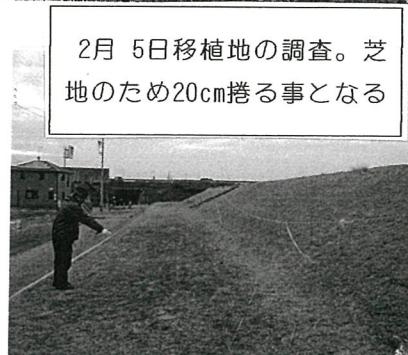


庄内川における自然再生の先進事例



移植先は志段味観測西側、表土を20cmの深さで法面全体を捲って、そのまま移動する工法で実施することになった。

移植は天地逆転であったため後日、復元作業を実施した。今夏の状況を見て手直しし、その後の活着状態はモニタリングする事とした。2012年2月21日・覆土後23日に幸い降雨があり生育を補完する事になった。

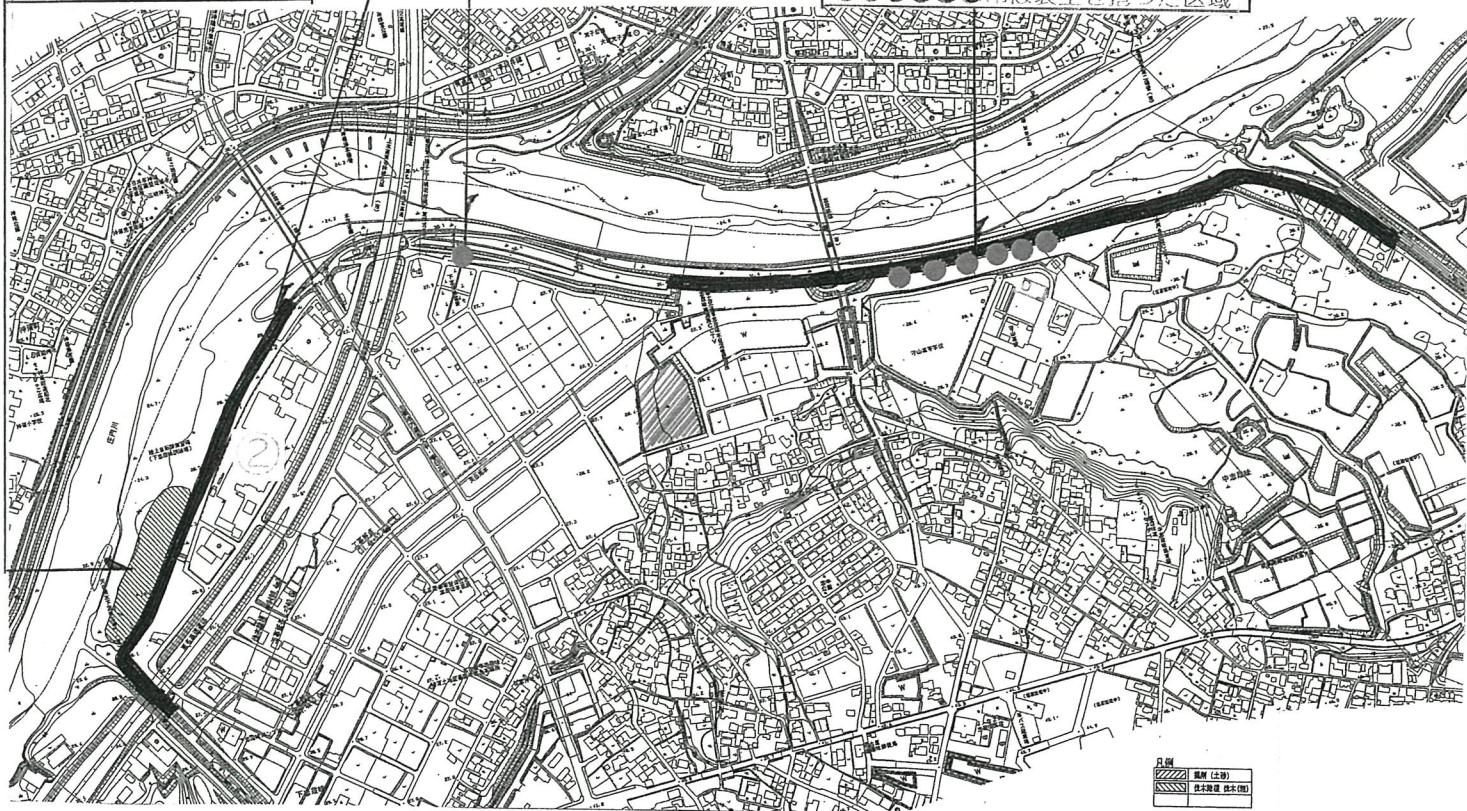


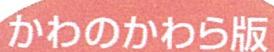
●印は覆土した区域

太線は嵩上築堤区間

斜線部は樹木伐採区域

●印は表土を捲つた区域





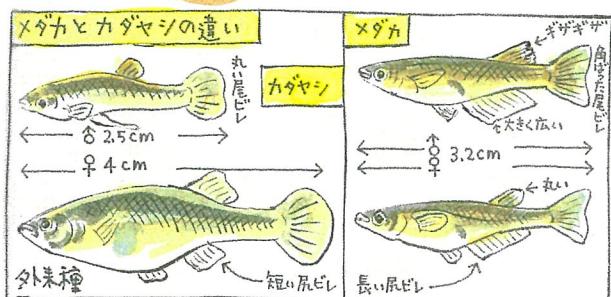
名古屋市水辺研究会

〒463-0801 名古屋市守山区竜泉寺1-101
TEL&FAX 052-795-8932
携帯 090-9946-8819

メダカとかわらナデシコ を助けよう

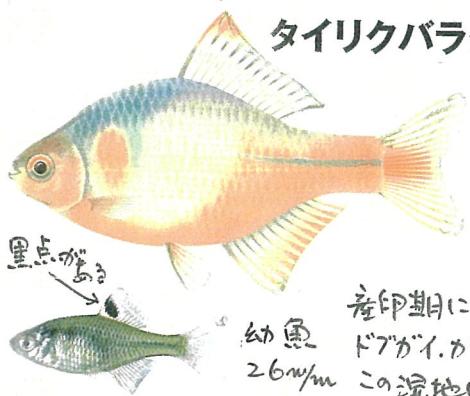
2012
3月

会員対象 春休み親子観察会



メダカ

メタガとまちが
いやすいものも
いますが注意
してまなびまし
よう。



産卵期には美しい色がある
幼魚 ドラゴン・カニスガイに産卵する
26mm この湿地には幼魚が多い。



ナデシコの仲間
世界には100種類
日本には4種類が
自生、外國ではアメリカ
ナデシコ、オランダナデシコ
の英名をカーネーション比
呼ぶ。
名前を付けるのはこの花場町か
一歳多く自生してると云うのです。

日時 3月28日 (水) 午後1時～3時

集合 守山区下志段味守山食堂駐車場

主催 名古屋市水辺研究会 費用無料

申込・問合先 同会事務局 795-8932

講師 ジュニアリーダー長縄眞知子・藤森智世ほか

持物 長靴・タモ・汚れてもよい服装

内容 庄内川は昨年の台風で川の水が堤防

を越えたため6mも堤防を高くする工

事でカワラナデシコ群生地が埋められてしまうため移動しました。近くの池にはメダカが沢山泳いでいます
が近々埋められる計画です。今まででは花は咲きそうもありません。
皆で花が咲くようにしましょう。メダカや魚も採集して観察しましょう。



予告…田んぼの学校 田おこし作業
3月31日(土)午前10時～12時 現地集合
今年もようしくお立会いします。